

# 技術士 2次試験に合格して



**仁田 智**  
(にた さとし)

## 勤務先

株式会社 雪研スノーイーターズ  
技術部

〒064-0804 札幌市中央区南4条西6丁目11-2 全日ビル  
TEL 011-272-3540 FAX 011-272-3550  
E-mail nita@snow-eaters.com

■ 専門：建設部門(道路)

## 1. 私の生い立ち

私は1976年(昭和51年)に北海道北部の名寄市で生まれ、父の仕事の関係で北海道内の都市を2~3年おきに移り住む、いわゆる転勤族の家庭で育ち、入学した学校を卒業したことがない“転校生の仁田くん”として、幼少~学生時代を過ごしました。父が技術系の仕事をしていたことから、私も将来はそのような仕事がしたいと漠然と考えていました。

## 2. 技術者としての経歴

高校を卒業後、測量会社に就職し、社会人としてスタートを切りました。主に従事してきたのは、一般的な公共測量のほか、ゼネコンから委託される工事測量、宅地造成などの開発行為に関わる業務で、ここで経験した様々な事柄が、私の技術者としてのベースになっています。その後、現在の会社に転職し、道路を吹雪や雪崩などの雪害から守るための計画やデータ解析、対策施設の設計に携わるようになり、職務内容がよりコンサルティング色の強いものになっていきました。

## 3. 技術士試験への挑戦

技術士の取得を目指したきっかけは、周りの先輩技術士の方々の振る舞いから資格の重みを感じ、自分もいつかは取得したいという思いを持っていたこと、また転職などを経験するなかで、より信頼される技術者になりたいという気持ちを強く持つようになったことからでした。

このような思いから資格取得への挑戦が始まり、一次試験は市販の参考書で勉強して、なんとか1回の受験で合格することができましたが、二次試験はそう簡単にいくはずもなく、複数回にわたる挑戦

となりました。合格をつかんだ昨年度は、今年は何んとしても頑張ると心に決めて、受験を支援してくれるセミナーや論文の添削を何度も受け、苦手な早起きをしてウェブで資料を収集するなどして、勉強を進めていきました。夏の筆記試験を突破した後は、このチャンスを逃すわけにはいかないとの思いで、模擬口頭試験を何度も受けて準備をし、その甲斐あって、それほど話し上手ではない私の割には試験官とうまくコミュニケーションをとることができたと思っています。12月の口頭試験から3月の合格発表までの時間はとても長く感じられ、どこか落ち着かない日々を過ごしましたが、結果は無事に合格でした。合格発表の当日は、これまでの人生のなかで“おめでとう”の言葉を一番たくさん頂いた1日となり、記憶に残る嬉しい日となりました。

## 4. 技術士試験に合格して

技術士として新たな技術者人生の一步を踏み出せたことをとても嬉しく思っております。技術士と書かれた名刺をわたすたび、少しずつ責任が重くなっていくようなプレッシャーを感じていますが、技術の研鑽を怠ることなく、資質の向上に努めていく所存です。また技術士会などの活動を通じて、技術者交流の輪にも加わっていきたいと考えていますので、今後ともご指導を頂けますようお願いいたします。

## 5. おわりに

最後になりましたが、私の受験を多方面から支援して下さった職場の皆様、数々の指導を頂いた指導技術士の皆様、そしていつも私を支えてくれる家族に心から感謝いたします。またこのような投稿の機会を与えて頂き、大変ありがとうございました。



**巻口 義博**

(まきぐち よしひろ)

#### 勤務先

株式会社 福田水文センター

環境水工部

〒001-0024 札幌市北区北24条西15丁目

TEL 011-736-2371 FAX 011-736-2393

E-mail y-makiguchi@f-suimon.co.jp

■ 専門：建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

## 1. 自己紹介

私は1980年(昭和55年)に釧路市で生まれ、その後、父の仕事の関係で苫小牧市に移り住みました。

当時、私は漠然と「将来は自分の家を作りたい」という思いがあり、地元の苫小牧工業高等専門学校(環境都市工学科)へ入学しました。しかし、入学してから、環境都市工学科は旧土木工学科であること、「建築」と「土木」では異なることを初めて知り愕然としたことを今でも覚えています。ただ、この考えを改めさせられる決定的な事がありました。それは、高専4年目に阪神・淡路大震災後の現地を見学したことです。震災発生は私の高専入学と同時期であり悲惨な状況であったことを覚えていましたが、わずかな期間での復旧・復興とそれを成しえた技術の高さを現地で実感し「少しでも社会の役に立ちたい」、「自分も将来このようなことが成しえる技術者になりたい」と思うようになりました。この現地見学から「もっと土木を知りたい」との思いが強くなり、大学・大学院への進学を決意しました。

その後、室蘭工業大学及び同大学院で河川工学・水文学を専攻していたことから、縁あって現在の会社に入社することとなりました。入社後は、主に河川の計画・設計の基礎情報となる水位・流量の精度向上やそれらを活用した防災計画の検討などに携わり、今年で9年目を迎えています。

## 2. 技術士試験について

技術士の資格を知ったのは学生時代です。大学の恩師に、将来は技術士資格が必要になるから取得できるよう頑張りなさいと勧められたことや大学で技術士の方の講演を聴く機会があったことなどから、

いつかは合格したいという「夢」でした。

その後、入社して日々の業務を通じて技術士資格の重要性を改めて認識することとなりました。また、社会的な重要性から、社内において受験申込から模擬面接まで一貫した勉強会が開かれるようになり、同世代の技術者が合格するようになると、自分も技術士になれるのではないかと、身近な目標として日々精進するようになりました。

私は2回目の受験で初めて筆記試験を合格し、口頭試験に臨むことになりましたが、技術的体験論文など口頭試験に向けた準備は何もしていませんでした。そのため、筆記試験合格発表から口頭試験までの約1ヶ月は必死に勉強しました。口頭試験は緊張しましたが、先輩技術士の方々に模擬面接を行って頂いたおかげで自分を飾らず正直に対応することができました。

今回、合格することができたのは、先輩技術士の皆様のご指導や家族の協力があってのことと感謝しております。

## 3. 今後に向けて

技術士試験を通じて最新技術の動向や業界の方向性を知ることができ、実務において役立っています。

今後は、これまで以上に社会的責任が重くなることを自覚し、資質向上に努めていきたいと思えます。また、昨年の東日本大震災など、今後益々災害への備えが重要になっており、地域防災に携わる技術士の一人として、社会に貢献できるよう努力していきたいと考えております。

最後になりますが、このような投稿の機会を与えて頂きましたことに感謝申し上げます。



**久保 裕一**  
(くぼ ゆういち)

**勤務先**

**株式会社 開発調査研究所**

交通・道路部

〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条10丁目7番1

TEL 011-852-3485 FAX 011-855-1298

E-mail kubo.215@kaichoken.co.jp

■ 専門：建設部門(道路)

**1. 自己紹介**

この度、技術士第二次試験に合格し、建設部門の技術士となりました久保と申します。

私は札幌の出身で、幼少時代は藻岩山や豊平川が近かったこともあり、野外で遊ぶことが好きでした。石で小川をせき止めたり、砂で道路やトンネルを作ったり。これらの記憶は、土木技術に携わる身として、現在の仕事を選択する際に影響したと思います。

短大、大学、大学院ともに土木の分野を6年間勉強して学生生活を終え、その後3年間の教職生活を経て、平成12年に道内のコンサルタントに就職しました。入社3年後、2年の期間で独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所 維持管理研究室(現 寒地道路保全チーム)に依頼研修員として参加し、この間、寒冷地道路の舗装技術を深く勉強することができました。当時の研究員の方々、現チームにいらっしゃるの方々には、色々とお指導いただきました。改めて、ここでお礼申し上げます。

会社に戻って研修で培った知識を基に、道路や空港舗装の劣化・保全対策、凍上対策に関わる業務に従事して経験を重ね、今年の3月、目標としていた技術士、建設部門(道路)に合格しました。

今年4月、それまで在籍していた会社を退職し、縁がありまして現在の(株)開発調査研究所に就職しました。駆け出しの技術士ですが、これからも公益の確保を念頭に、安心・安全な道路の構築に尽力する所存です。

**2. 技術士試験**

技術士試験のイメージを聞かれれば、“忍耐”と回答します。

二次試験の受験に必須な一次試験について、合格したのは平成12年度でした。折しも、次年度から

試験方法が大きく変わると聞いていましたので、必死で論文等の記述を勉強して何とか合格したのですが、次年度から試験方法はマークシートのみに変更され、何か釈然としない思いをしたことを覚えています。ここから、技術士試験に対する私の認識は悪化し、結果的に自分自身に負け、二次試験の合格まで実に11年の歳月を費やしてしまいました。

合格までの道のりは遠く、建設一般や専門問題の得点は二転三転しました。このため、採点の方法が不明であることや運が悪いなどと考えたこともありましたが、しかし、結果的には悪い結果でも諦めず、他人の教えに耳を傾け、今までで一番勉強したと認識できた年に合格しました。このことから、合否にはしっかりとした基準があり、自己の継続研鑽を行うことによってしか合格に至らないことは、どうやら間違いないようです。

**3. 今後に向けて**

この原稿を執筆している現在、会社では新人同然であり、技術士という資格は業務の適正でスピーディな遂行には寄与できていません。しかし、今後業務を履行する際には、どのような場面においても面接試験で暗記した技術士倫理を考えるとと思いますが、公衆の利益の優先という行為は極めて難しいですが、そのような見方が必要であると認識できたことは、日本の社会基盤整備に携わる一技術者として、非常に重要であると思えるようになりました。これが、二次試験に合格したことによる一番の変化です。

技術士登録により、一層重い責任を担うこととなりますが、今後とも更なる自己研鑽に励み、諸先輩の指導を受けながら、技術を適切に履行できる技術者を目指したいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



**島村 剛**  
(しまむら たけし)

#### 勤務先

東芝電波プロダクツ 株式会社

恵庭工場

〒061-1411 恵庭市恵南17-1

TEL 0123-33-0140 FAX 0123-33-0119

E-mail takeshi1.shimamura@tept.toshiba.co.jp

■ 専門：電気電子部門(電子応用)

## 1. 自己紹介

私は、新潟県長岡市に生まれました。小学生の頃、夏休みの自由研究でオームの法則の実験報告を校内で発表したことや、アマチュア無線でアンテナ製作などの楽しみを覚えたこと、親父が技術者だったことなどが、電子工学に興味を持つきっかけになったと思います。その後、仙台で大学時代を過ごし、1981年(昭和56年)に(株)東芝に入社しました。東芝では、レーダ技術を活用した自衛隊装備品の研究・開発に27年程従事し、品質保証部長を3年務めて定年扱い退職し、現在、東芝の関係会社にて勤務しています。レーダは、送信した電波が目標から反射する方向や受信するまでの遅延時間から方向、距離を計測して、目標の現在位置を把握したり、その将来位置を予測するなどの動きをします。野外試験で航空機からの反射信号波形を、オシロスコープを用いて目で確認して、理論の理解に自信を持つことができたことが印象深い経験です。弊社は、主に、東芝が自衛隊に納入した装備品の部隊整備に必要な補用品の製造や定期的な整備を行い、いつでも使える装備品とする支援を実施しています。洞爺湖サミットや新潟中越地震の自衛隊派遣時にも、弊社が担当した装備品が活躍している姿を見て、あらためて担当事業の重要性を再確認できました。

特技は柔道四段(現在、五段受験中で、北海道での稽古環境を模索中)、趣味はジョギングのほかスキーを再開し、更に最近は20数年ぶりにゴルフ再開を準備中であり、体を動かすことが大好きです。

## 2. 受験体験

技術士取得の動機は、研究開発の最前線から距離をおいたこともあり、蓄積してきた技術の不足部分を確認し補強していく良いきっかけになると考えたことや知人技術士の勧めがあったことです。

第1次試験では若い受験者が多く刺激を受けました。1回目の第2次試験は不合格でした。その反省として短い文節に区切ることや、主語の適切な使用など、読み手が理解しやすい明確化に留意する練習を行いました。2回目の試験では、回答内容についての自信は1回目と同程度でしたが、合格の判断を頂けたのは、文章の洗練化に努めた効果があったものと思います。また、試験前の節電の夏のなかで、集中力を持続するための普段からの体力・精神力の維持向上も重要と感じました。体験論文は、自分の経験が技術士たるに値するのかどうかを試す気持ちもあり、自身を形作ったと考えている経験の中で、最も影響の大きかったものを取り上げました。口頭試験では、論文説明の初めは緊張のせいか頭が白くなりかけましたが、数分もしたら落ち着くことができました。質問者が求めていることは何か、どう説明したら理解を得やすいかを考えて論理的に話すことを普段から練習しておくことが大事だと思います。

## 3. 今後の抱負

今後は、企業内技術士として社内技術者に自己の経験を伝えることによって技術者育成に努めたいと思います。それによって、会社の技術力向上に貢献できればと考えます。また、顧客や関係先には、企業活動の理解を深めて頂くことや顧客や関係者の声を収集・分析し製品に活かすことに努めて、顧客と共により良い装備品や維持整備体制の構築に貢献していきたいと考えています。

末筆になりましたが、青年時代を育んで頂いた仙台初め東日本大震災被災地の一刻も早い復興を祈念するとともに、投稿の機会を頂いたことに紙面を借りて御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。





**飯野 晃**  
(いいの あきら)

**勤務先**

**AI技術士事務所**

代表

〒069-0833 江別市文京台55番地の13  
TEL 011-386-8900 FAX 011-386-8902  
E-mail ai.gijutu@gmail.com

■ 専門：電気電子部門(電気設備)

**1. 自己PR：**

昭和34年上芦別町の炭鉱住宅で生まれました。昭和39年炭鉱の閉山により家族で苫小牧に移住し、20歳で苫小牧高専電気工学科を卒業して電気工事会社に就職し、札幌勤務になりました。電気工事会社では3年半現場代理人として勤務しましたが、知人より国立大学施設職員にならないかとの誘いがあり帯広畜産大学施設課の電気担当職員に転職しました。主に電気設備の設計、施工管理、保守をしながら経験を積み、平成11年から北見工業大学に転勤し4年後帯広畜産大学に戻り、平成22年に退職して現在は自営で設計などの仕事をしています。北見工業大学に勤務中、40歳になり定年退職後(公務員は60歳で定年)、の仕事の考えると資格を取っておくべきだと思い41歳から電検2種に挑戦したのを始めにエネルギー管理士も受験する中、平成17年より技術士にも挑戦し23年度で合格することが出来ました。国立大学職員として勤務していた時に幅広く電気に関することに関わり対応していたことが技術士の受験に役立ちました。また、平成5年の釧路沖地震による災害対応や国立大学の法人化に伴う労働安全対策を行ったことは貴重な経験となっています。専門外の仕事が増え、辛いときもありましたが、今では専門外であった仕事の経験が本来の仕事の技能を高めるために役立ったと思います。

**2. 技術士試験**

平成17年に一次試験に挑み、1回目は不合格でしたが翌年にぎりぎり一次試験に合格。19年から二次試験を受験しましたが三年間不合格が続き、22年度で二次試験に合格したものの面接試験で不合格になり、がっかりしましたが、23年度の二次筆記に合格し、面接試験も何とかパスすることができました。ちなみに私が面接試験で不合格になった

のは「技術士制度の認識」で、技術士倫理要綱ばかり暗記し、「技術士法の第\*\*条について説明して下さい」と質問されたのに答えられなかったためでした。

**3. 今後に向けて**

東日本大震災と福島原発事故が今後の日本における様々な技術分野に対し影響を与えています。日本は高度成長以来続いてきた拡大成長というものが見直され社会や個人の生活様式が大きく変化する時代に入っていると思います。私は利便性や快適性を維持し、低エネルギーで環境に配慮した社会を構築するのは、これからの日本の技術者に与えられた課題だと考えています。この分野では、これまで日本の科学・工業分野が主として行ってきた「海外の技術・発明を取入れ工夫改良を進める」という手法が適用できないと思います。科学技術は発明・開発・製品化・運用・普及という一連が繋がり役立つものです。私は、それぞれの繋がりを潤滑に行うためには技術力とともに技術士会で定めた技術士倫理が大変重要だと思います。正しい技術者倫理をもって新分野を進めば間違い無く日本が世界の先端を行く低エネルギー・環境配慮社会を実現できるという確信を持って技術士として貢献していきたいと思いません。とは言え、技術士としては1年生の未熟者なので先輩技術士のかたがたの御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

**4. 追記**

技術士になれたことの感謝を家族、学校の先生がた、共に仕事をしたかたがたに捧げます。私事ですが23歳のときからクローン病という難病を患いながらも今までやって来られたのも多くの人の助力に支えられてきたからだだと思います。同じような病気を患っているかたへの励みとなれば嬉しく思います。

今回、このような雑文を掲載する機会を与えて下さった北海道本部のかたがたに感謝致します。



米田 豊

(よねだ ゆたか)

## 勤務先

株式会社 エコニクス

環境事業部◇陸域環境チーム

〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目2番14号

TEL 011-807-6811 FAX 011-807-6800

E-mail y-yoneda@econixe.co.jp

■ 専門：環境部門(自然環境保全)

## 1. 自己紹介

私は1969年(昭和44年)に神奈川県で生まれ、高校卒業まで関東地方で過ごしました。その後、江別市の酪農学園大学への入学をきっかけに北海道を初めて訪れ、そして移り住むことになりました。

大学生活の間に道内各地を旅行して、関東地方では触れることのできなかったスケールの大きな北海道の自然に魅了され、今後も北海道で暮らしたいと思うようになりました。そして、卒業後は自然環境に携わる仕事に従事したいと思い、縁あって現職の株式会社エコニクスに入社しました。

現在は、大学時代の希望が叶い、主に動植物に係わるフィールド調査やその結果の解析・影響評価、ならびに野生動植物の保全対策の計画立案・実施などに携わっています。

## 2. 技術士について

学生時代には技術士という資格について全く知識がありませんでしたが、社会人となった後に社内のみならず社外の技術士の先輩方と業務を通じて接する機会を得ることとなりました。そして、先輩方の持つ豊富な知識や高度な技術に憧れるようになりました。また、公益の確保を責務の一つとして、自らの技術を社会に役立てる技術士の使命に感銘を受けました。いつしか、自分もいずれ技術士になりたいと願うようになりました。

## 3. 技術士試験について

筆記試験では、まず論文全体の構成をよく考えてから、作文に取り掛かるようにしました。そして、論理的で説得力のある論文とすることを心掛けまし

た。また、自分の知識をアピールするだけでなく、できるだけ自らの考えを盛り込むように心掛けました。

技術的体験論文については、口頭試験でのプレゼンテーションや時間配分を想定して作成しました。

口頭試験では、自分を飾らずに誠実に対応することを心掛けました。そして、社内でも実施して頂いた模擬面接のおかげで、落ち着いて受け答えすることができたと思います。

試験に合格するためには、普段から様々な知識をストックしておくことと、情報を得るだけでなく自分なりに考察することが重要だと思います。また、論理的な文章力が必要なので、普段から理解を得られやすい文章を書くことを心掛ける必要があると思います。

## 4. 今後に向けて

今後、私は環境部門の技術士として、生物の分類や保全生態学などの知識を活用し、野生生物の保全に貢献したいと考えます。

具体的には、これまで自然環境に関わる影響評価や希少種の保全を実施してきたように、開発事業による野生生物への影響評価を適切に行い、ミチゲーションの手順に則り、その地域に適合した保全対策の立案・提言を行いたいと考えます。こうして、地域の個々の野生生物や生物多様性の保全に努めることによって、社会に貢献したいと考えます。

最後に、このような投稿の機会を与您いただき、誠にありがとうございました。



**提箸 祥幸**

(さげはし よしゆき)

**勤務先**

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター  
寒地作物研究領域

〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘1  
TEL 011-857-9478 FAX 011-859-2178  
E-mail sagehasi@affrc.go.jp

■ 専門：生物工学部門(細胞遺伝子工学)

**1. 自己紹介**

この度、技術士の二次試験に合格いたしました。技術士登録も4月に済ませ、技術士人生をスタートさせたばかりです。

私は1976年(昭和51年)に栃木県南西部の父家で三代続く大工の家に生まれ、野山を駆け回りのびと育ちました。大学、大学院は神奈川、東京と都市で過ごし、就職の後は新潟県上越市の北陸研究センターで7年ほどイネの耐病性に関する研究を行い、今年の4月に札幌の北海道農業研究センターへ異動になりました。4月からはイネの耐冷性に関する研究に取り組んでいます。

趣味は草野球で、大学院博士課程在籍時には毎年30を超える試合数をこなし、卒業が危ぶまれたほどの野球好きです。

**2. 技術士試験について**

私が初めて技術士試験を知ったのは、就職して2年目でした。当時の私は、職場にも慣れ、良い研究をして世のため人のためになる成果を出したいと意気込んでいたのですが、そのために自分はどうか明らかな目標が定められずにいました。業務で行う農業研究の成果を世に役立てるためには、企業や大学との積極的な連携が必要であり、そのための研究の橋渡しができる人材が必要だと気がつきました。そんな人材に自分がなれたらと強く思っていたころ、技術士試験のことを知ったのです。なぜかその年だけ職場に試験案内のポスターが貼ってあったように記憶しています。これも何かの縁なのでしょうか。

一次試験は翌年にクリアしました。出題自体は難しくはないのですが、範囲が広いので広く浅くの勉強

が必要かもしれません。

二次試験は受験資格を得るのにさらに数年の実務経験が必要であったため、じっくりと対策を…とできたらよかったです。なかなかそうもいきません。気がついたら受験資格を得ていて、慌てて試験対策を開始することに…。受験生といえども、日常の業務に追われるため、1日の試験勉強に割ける時間には限りがあります。そのため、無駄だと思うことは一切やめました。論文を実際に書いてみる作業もほとんど行わなかったくらいです(お勧めはしません)。勉強は大変でしたが、このときの経験はその後の日常業務でとても役立ちました。

□頭試験は、落ちたら筆記試験からもう一回という精神的プレッシャーがあり、大変緊張しました。しかし、技術的体験論文を書くために自分のこれまでの業務を一度見直し、技術的な意味付けを再確認できたことは大変意義深かったと思います。

**3. 今後について**

私の専門とする生物工学分野の研究は、成果を即農業の現場に還元できることは少ないのが現状です。しかし、将来的に役立つ素晴らしい研究成果も多く、今後は他の広い分野の研究者をはじめ、企業や大学とも積極的に連携し、少しでも多くの研究成果を世に役立てていけたらと考えています。そのための橋渡しの役割を、技術士となった私自身が担えたら幸いです。

最後になりましたが、支えてくれた家族に心から感謝いたします。また、このような投稿の機会を与えていただいたことに心から御礼申し上げます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



**新妻 重明**

(にいつま しげあき)

## 勤務先

株式会社 開発工営社

共通事業本部 地質部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目1番地アスティ 45ビル 13階

TEL 011-207-3666 FAX 011-218-5777

E-mail niitsuma@kai-koei.co.jp

■ 専門：応用理学部門(地質)

## 1. 自己紹介

私は1980年(昭和55年)に宮城県仙台市に生まれ、高校を卒業するまで仙台市で過ごしました。その後、お隣の山形県の大学に進学し、大学院を修了するまで山形市で過ごしました。高校時代から大学時代にかけては、山岳会等に所属し、趣味で登山やクライミングを行って参りました。そして、沢登り、冬山登山、アイスクライミングなどをしながら、国内外の様々な場所で自然に親しむことが出来ました。大学では地球科学について学び、岩石の放射年代学をテーマに研究を行っていました。

北海道札幌市に移住したのは就職がきっかけで、2006年(平成18年)に入社し、今年で6年目になります。業務としては主に、トンネルの地山評価、斜面の落石対策検討、地すべり対策検討を行って参りました。また、学生時代に培った登山技術を生かし、クライミング調査も行っています。クライミング調査では、急崖斜面の地質調査や危険度評価のほか、ダム堤体や橋梁橋脚の壁面調査や物理探査(弾性波探査、地中レーダ等)、サンプリング(コア抜き、ドリル削孔粉等)も行っております。

## 2. 技術士試験について

受験に申込み直前までは、自分はまだ経験が浅く、技術士合格は厳しいものと思っていました。しかし、試験を通じて勉強すること自体が、技術者として自己を高めることが出来ると考えて受験を決めました。

筆記試験の対策は、学習を始めた当初、地質に関する調査、試験、解析等の基礎的事項を主に学習していました。しかし、技術士の諸先輩方から模擬試験や添削指導を受ける中で、上記の知識の他に「設問のポイントをよく理解し、それに対して漏れなく回答する」ことが重要であると教えて頂きました。

ご指導のお蔭で、試験では少ない知識の中でも、何とか回答用紙を埋めることが出来ました。

口頭試験の対策は、筆記試験後に何も行っていなかったため、短期間で体験論文の作成には苦労しました。特に、限られた実務経験の中から、技術士として相応しい「課題及び問題点」と「技術的提案」の組み合わせを探ることが最も困難でした。面接対策は、想定問答を作成しながら学習していましたが、調べれば調べるほど分からないことが増えてゆき、自分の未熟さを痛感させられました。しかし、分からないことに気づくということは、進歩している証拠だと前向きに考えて取り組みました。そして、数回の模擬面接をして頂いたこともあり、面接本番では比較的落ち着いて話をする事が出来ました。

今回、合格に漕ぎ着けられたのは、技術士の諸先輩方のご指導と、日頃の業務でお世話になっている方々のご協力があったの事と感謝しております。この場をお借りして、御礼申し上げます。

## 3. 今後に向けて

昨年3月11日の東日本大震災では、私の故郷の宮城県も甚大な被害を受け、多くの方々が犠牲になりました。そして、この大災害から、自然と人の付き合い方について、多くの事を考えさせられました。

地質技術者に必要な役割とは、「自然と人間社会とをつなぐこと」であると言われてます。そのためには、客観的視点で自然現象をよく観察すること、そして、観察した事象を分かり易い表現で社会に伝えることが大切だと思っております。災害に携わる技術者の一人として、防災技術の発展に少しでも貢献できるよう、上記の役割を大切にしながら、日々努力して参りたいと思っております。今後とも、ご指導の程、宜しく申し上げます。